

東南置賜地区の県立高校の再編整備に係る検討委員会「中間報告書」に係る地域説明会
【川西町会場】 記録要旨

- 1 日時 平成30年2月16日(金) 19:00~20:15
- 2 場所 川西町役場農村環境改善センター(川西町大字中小松 2240-2)
- 3 出席者 地域の方々 6名

県教委 津田教育次長、須貝高校改革推進室長、伊藤高校改革推進室長補佐
小野高校改革主査、奥山高校改革主査

- 4 内容 須貝室長から概要説明後、質疑応答

5 質疑応答概要

(質問・意見)

①川西町の通学のための公共交通機関は、JR米坂線と小松・米沢間のバスしかないため、自家用車による送迎に頼る部分が多く、保護者は大変苦勞している。私立高校は通学バスを運行しているが、検討委員会において県立高校での通学バスの導入について検討されたのか。

②もし、再編整備により置賜農業高校がなくなる場合、地域説明会は実施されるのか。

(県教育庁)

①中間報告書の「東南置賜地区の県立高校の現状と課題」にも記載されており、再編整備には、地理的条件、交通事情などを勘案した通学の便についての考慮が必要であるという課題意識の議論はしていただいた。様々な場においても同様の意見をいただいている。高校再編と通学手段は切り離して考えることはできず、課題として捉えているが、具体的に通学手段をどのように確保すればよいかなどの解決策についての踏み込んだ議論まではしていない。

②本県他地区での前例では、検討委員会の報告書を受け再編整備計画案を示した場合、地域説明会の開催、地元の自治体への相談を必ず行っている。反対の声が出てくることもあるが、これから高校で学ぶ生徒のことを第一に考え、丁寧に説明している。

(質問・意見)

望まれる学校のタイプは、資料にある3つのタイプに集約されると思う。普通科志望の生徒が多いが、当地区の産業技術者の人材育成という面から考えても、農業、工業などの専門学科も必要である。バランスよい再編をお願いしたい。

(県教育庁)

検討委員会にしっかり伝えたい。高校教育において、地域の産業を担っていく人材を育成していくことは必要であると考えている。工業科に関しては、本県の全定員内の工業科定員の割合は、全国で3番目に多い。また、農業科は、志望者数の減少により小規模化しているが、ブランド化、学校の特色化をはかって農業高校の魅力を高める取り組みが今まで以上に必要になってくる。

(質問・意見)

①小学3年生と5歳の子がおり、平成36年に現在小学3年生の子が高校1年生になる。平成36年度を目途とする中期的な視点、平成36年以降の長期的な視点での高校配置案は示されているが、どのようなスパンでの実施を考えているのか。

②子ども達が高校を選択する際に、不安を感じないように高校再編してほしい。例えば、統合した際に1年生から3年生まで制服や体育着が揃い、統一感が出るように配慮してほしい。

③高校配置案として例2の方が実情に合っている。

(県教育庁)

①どのような学校になるのかははっきりさせないと高校を選択できなくなるのは当然のことである。何年度に再編整備をするかは、現段階でははっきりと述べることはできない。中期的な視点は、H36年度をめぐりしているが、統合するのか、どの校舎を使うかなどどのような再編をするのかによって準備期間は変わってくるため、平成36年度から前後する場合もある。本県の前例として、学級減の場合は3年度前には公表しており、統合する場合は、酒田光陵高校開校の7年前、村山産業高校で4年前に公表している。

②統合して一緒になった際に、同じ制服・体育着であったほうが一体感が生まれるため、酒田光陵高校では、統合する時に同じ制服になるよう、統合2年前の入学生から同じ制服に揃え、統合した際に1年生から3年生まで同じ制服になるようにした。また、統合前から各高校の生徒会が一緒に活動するなどして生徒同士の一体感を生む活動もしている。生徒が、統合した高校の新たな歴史を一緒に作り上げ、前向きになれる工夫をしていきたい。

(質問・意見)

置賜地区3市5町は、置賜定住自立圏構想に取り組む考えを明らかにし、米沢市が中心市宣言する予定である。今後、教育面などでの協定なども結ばれると思われるが、連携については、検討委員会では検討されたのか。

(県教育庁)

地域の産業界への人材供給や地域づくりの人材育成については議論されたが、直接、置賜定住自立圏構想との関係についての議論はしていない。

以上